

新しい評価の考えを生かした鑑賞学習の在り方  
—知覚・感受する力を高めるための手だてを通して—

八千代町立西豊田小学校 入山 克巳

## 【目次】

○	研究概要	2
1	研究主題	3
2	主題設定の理由	3
3	研究のねらい	3
4	研究の仮説	4
5	研究の内容	
(1)	鑑賞学習における基本的な考え方（大切にしたいこと）	
①	進んで音楽を聴こうとする態度の育成	4
②	視覚化，動作化，音声化などを取り入れた活動の充実	4
③	感じたことを言葉やジェスチャーで表現する活動の充実	4
④	それを他と交流させる活動の充実	6
⑤	音楽をじっくりと味わって聴く時間の確保	6
(2)	研究の実践	
①	拍の流れにのって（第4学年）	7
②	旋律やひびき，速度の変化を聴き取り，その効果を感じ取ろう（第6学年）	8
③	尺八の音楽を味わおう（第6学年）	9
6	研究の成果と課題	
(1)	成果	15
(2)	課題	15
7	参考文献	15

## ○ 研究概要

音楽における「思考・判断・表現」のさらなる充実を求め、新学習指導要領のもとで新しい評価がはじまった。本研究では、新しい評価の考え方に基づいた、鑑賞学習の在り方をさぐるものがテーマである。新学習指導要領の音楽科では、[共通事項]が新設され、音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとした学習の展開が重視される。

そこで、本研究のねらいを、「音楽を形づくっている要素を知覚・感受する力を高める手だてを講じ、鑑賞学習の在り方をさぐる。」とした。そして、鑑賞の学習においては、次の2点を特に大切にしながら授業設計を行うこととした。

- ・ 進んで音楽を聴こうとしているか。
- ・ 音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして、楽曲の特徴や演奏のよさを味わっているか。

このような児童の学びの姿を引き出すために、「視覚化や動作化、音声化などの活動を取り入れることによって、音楽を形づくっている要素の知覚・感受の力がさらにはぐくまれ、音楽の特徴や演奏のよさをより味わって聴くことにつながるであろう。」という仮説を立てて研究を進めた。具体的には、次の3つの授業事例から検証を行った。

1 拍の流れにのって (第4学年) 〈トルコ行進曲〉ベートーヴェン作曲 <u>主題に迫る手だて</u> 動作化・グループでの対話
2 旋律やひびき、速度の変化を聴き取り、その効果を感じ取ろう (第6学年) 〈ハンガリー舞曲 第5番〉ブラームス作曲 <u>主題に迫る手だて</u> 視覚化・グループによる要素の知覚
3 尺八の音楽を味わおう (第6学年) 〈鹿の遠音〉作者不明、〈春の海〉宮城道雄作曲 <u>主題に迫る手だて</u> 音声化・対話・本物(尺八)に触れる

さらに、鑑賞学習の在り方をさぐっていく中で、次の5点を基本的な考え方(大切にしたいこと)とした。

- 1 進んで音楽を聴こうとする態度の育成
- 2 視覚化、動作化、音声化などを取り入れた活動の充実
- 3 感じたことを言葉やジェスチャーで表現する活動の充実
- 4 それを他と交流させる活動の充実
- 5 音楽をじっくりと味わって聴く時間の確保

研究の成果としては、視覚化や動作化、音声化などの多彩な活動を取り入れたことにより、音楽を主体的に聴こうとする態度が育ったことと、音楽を形づくっている要素の知覚・感受が豊かになり、音楽の特徴や演奏のよさを味わって聴くことができるようになったことが挙げられる。これは、新しい評価の考え方で求められていることである。

今後さらに、鑑賞領域の授業と表現領域の授業との有機的な関連を求めていくこと、「音楽を表す言葉」をただつなげて「感想文をつくる」こと自体が目的の授業に陥らないようにすることを課題として、一層の研究を深めていきたい。

## 1 研究主題

新しい評価の考えを生かした鑑賞学習の在り方  
知覚・感受する力を高めるための手だてを通して

## 2 主題設定の理由

新学習指導要領が全面実施となり、評価も新しくなった。「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（平成22年3月24日）では、音楽、図画工作、美術における新しい評価の観点に関する考え方として、以下の3点を挙げている。

- ① 音楽、図画工作、美術においては、表現、鑑賞の活動を通じて、音楽活動や造形的な創造活動の基礎的な能力を培うとともに、豊かな情操を養うことが目標とされている。
- ② そのうち、芸術に係る表現の能力を評価するに当たっては、基礎的・基本的な知識・技能のうち、特に「技能」に関する観点と、表現を創意工夫したり発想・構想したりする能力に関する観点とに分けて示すことが適当である。
- ③ また、芸術に係る鑑賞の能力を評価するに当たっては、基礎的・基本的な知識・技能のうち、特に「知識・理解」に関する観点と、自分なりに評価したり価値を考えたりする能力に関する観点とを一体的に見る観点を位置付けることが適当である。

こうした考え方にに基づき、以下のように、音楽科の新しい4つの観点が示されたのである。

第1観点「音楽への関心・意欲・態度」

第2観点「音楽表現の創意工夫」

第3観点「音楽表現の技能」

第4観点「鑑賞の能力」

音楽科の鑑賞領域では、これまで第1観点「音楽への関心・意欲・態度」、第2観点「音楽的な感受や表現の工夫」と第4観点「鑑賞の能力」で評価していたが、音楽的な感受の内容を「鑑賞の能力」の中に明示することによって、第1観点と第4観点の2つの観点で評価することになった。これまでの「鑑賞の能力」と「音楽的な感受」の違いがわかりにくいという課題の解消を図ったものと考えられる。その「音楽的な感受」は、第2観点と第4観点の学習内容の支えとなるものとして、[共通事項]の事項アというかたちで新設された。第2、第4観点は、音楽における「思考・判断・表現」に係る観点であるため、今回の改訂では特に重視されている。つまり、表現と鑑賞の2つの領域にわたる音楽活動のどちらにも係り、その基底になるものとして、児童にもっとも身に付けさせたい力である。

そこで、新しい評価の考えを生かした鑑賞学習においては、[共通事項]の事項アの活動を支えにした授業を一層大切にしていきたい。そのためには、音楽を形づくっている要素を知覚・感受する力を高める手だてを講じることが重要であると考え、本主題を設定した。

## 3 研究のねらい

音色やリズム、速度など、音楽を形づくっている要素を知覚・感受する力を高める手だてを講じ、鑑賞学習の在り方をさぐる。

#### 4 研究の仮説

鑑賞学習に、視覚化や動作化、音声化などの活動を取り入れることによって、音楽を形づくっている要素の知覚・感受の力がさらにはぐくまれ、音楽の特徴や演奏のよさをより味わって聴くことにつながるであろう。

#### 5 研究の内容

##### (1) 鑑賞学習における基本的な考え方（大切にしたいこと）

###### ① 進んで音楽を聴こうとする態度の育成

音楽学習では情意面を豊かに育てることがもっとも大切になってくる。身を乗り出して音楽を聴くように、関心を高める手立てを常に考えたい。低学年では演奏している楽器をまねるなどの活動が効果的である。中・高学年では曲想が変化したところで挙手をしたり、体を動かしたりするなどの活動を十分に行うようにする。また、有名な楽曲の冒頭部分を数秒聴かせるクイズ（イントロクイズ）なども、意欲的に集中して聴こうとする態度を育てるのに効果がある。さらに、楽器をまねての動きでは、「どうしてそのような動きをしたのか」や、イントロクイズで、「どうして曲が分かったのか」と質問することで、その児童が感じ取った内容を確認することになるため、音楽的な感受の学習に展開できる。このように、児童が喜んで活動する場面を大切に、音楽を進んで聴こうとする態度を育てたい。

###### ② 視覚化、動作化、音声化などを取り入れた活動の充実

本校の6年1組31人の意識調査（平成23年5月）によると、鑑賞は好きなのだが、何を聴いてよいか分からないと回答した児童が87%にのぼる。これを解消するためには、音楽を形づくっている要素に着目させ、聴くポイントをはっきりさせることが重要である。

具体的には、メロディーラインを線やマークで表したり、音色や調性などの特徴、繰り返しを「色カード」を並べたりすることで、音楽を視覚的にとらえることができる。ブラームス作曲〈ハンガリー舞曲第5番〉の実践では、「曲の設計図」（p8資料4参照）を見ながら聴くことで、音楽の構造が見えてくるのである。つまり、楽曲の構造上の特徴を理解するのに役立つと考える。

また、楽曲に合わせて体を動かしたり、メロディーを声に出して歌ってみたりする活動を取り入れることにより、音楽を形づくっている要素に気付きやすくなり、それらの働きによる効果を感じ取ることができるようになってくると考える。

###### ③ 感じたことを言葉やジェスチャーで表現する活動の充実

聴いて感じたことを言葉で表現するときには、次のような表現方法が考えられる。

ア 「ピュー〜ピュー〜」など聞こえたままの音（擬音語）を使う。

イ 身振り手振り（ジェスチャー）を使う。

ウ 「まるで、〇〇のようだ」などの比喩的な言葉を使う。

ア、イは、聞こえた音を自分の中で再現していることになる。音色などの音の特徴をしっかりと理解しなければ表現は不可能である。ウは、一人一人がもっている語彙の多

い少ないが問題になってくるので、「音を表す言葉」を教室内に掲示しておく方法は、自分の言葉で音楽の特徴やよさを表現するのに大変効果がある。

資料1 授業で使っている「音を表す言葉」

a 「音楽を表す言葉（語彙表）」

佐賀大学准教授 山田潤次, 佐賀大学大学院 中島 舞 作成

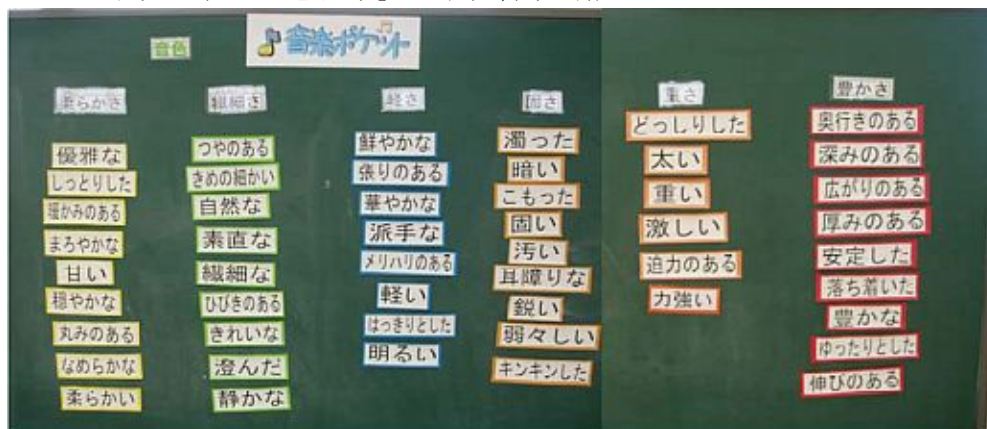
音楽と感情を結ぶ言葉として約200語を挙げている。ここでは、その一部分を示す。

明るい 暗い 薄暗い 多彩な 色彩豊かな 淡い  
 きらびやかな ゆらめくような またたくような 火のように明るい  
 エネルギー 魂 引力 性格 気質 意志 神経 必然 (性)  
 素直な 率直な 素朴な 無理のない 無駄のない あっさりとした

これらの言葉をプリントにして児童に持たせ、音や音楽を言葉で表すときには、その中にある言葉から、聴き取ったり感じたりした音を探すのである。ここにある言葉を使うだけでも、児童の語彙力は確実に高まっていき、音楽を言葉で表す力が増していく。

b 「音楽ポケット」(筆者が名付けたもの、音楽室に掲示)

上田和夫「音色の感性学」日本音響学会編 2010より



(注意) 本来の分析表では6つのグループのそれぞれが階層レベルごとに示されている。左の表の列は階層レベルを示すものではない。

「音色」を表す言葉としてこれを教室に掲示している。上田氏は音色表現語を、**柔らかさ** **繊細さ** **軽さ** **固さ** **重さ** **豊かさ** の6つのグループに分けている。児童にわかりやすいように、それぞれのカードをグループごとに色枠で囲んだ。関連性のあるグループ内の言葉を見比べて理解させるためである。児童は、これを眺めながら、自分の言葉として、音色を表そうとするようになる。

c 「気分 de 感じシート」

岩手県盛岡市立松園中学校教諭 高橋宏治 作成のものに筆者が加筆したもの

「この音楽は〇〇な気分、□□な感じがする」というフレーズにあてはめるだけで音楽を言葉で表せる高橋氏が考案したシートである。音楽を聴いてどんな気分になるかという単純な問いにあてはめて答える形式なので、だれでも簡単に「感じ」が把握できる。自分と同じ「感じ」同士での意見交流に役立つ。また、シート内の空欄には、自分で考えたり思ったりした言葉を書き入れることもできる。

「気分de感じシート」					年 組 氏 名				
※「この音楽は〇〇な気分で、□□な感じがする」をあてはめて、聴いてみよう									
気分	感じ	気分	感じ	気分	感じ	気分	感じ	気分	感じ
元気な	元気な	楽しい	やさしい	落ち着いた	悲しい	怖い	怖い		
	力強い	うれしい	爽しい	どっしりした	きびしい	怪しい	怪しい		
	堂々とした	ホセな	きれいな	重々しい	暗い	不気味な	不気味な		
	生き生きとした	明るい	しっとりとした	大い	暗々しい	悲しい	悲しい		
	はつらつとした	かわいもしい	なめらかな	力強い	こもった	こもった	こもった		
	楽しい	うきうきした	ゆったりとした	興奮さのある	重い	重い	重い		
	迫力のある	笑顔になれる	おだやかな	広がりのある	だるい	だるい	だるい		
	のびのびとした	さわやかな	夢見るような	厚みのある	苦しい	苦しい	苦しい		
	夏の太陽のような	精々とした	ふわふわした	豊かな					
	舞むような	おどけた	軽やかな						
	走るような	歌うような	ほがらかな						
	跳びはねるような	華やかな	ゆったりとした						
	迫力のある	おもしろい	うっとりとした						
		はしゃいでいる							
		わくわくするような							

④ それを他と交流させる活動の充実

音楽を聴いて価値に気付いたり、それを共有したりしながら多様な価値にふれさせるためには、聴いた感想を書いて終わりという学習から、それらを言葉にして友達と交流させる学習への発展が大切になってくる。交流を通して、いろいろな感じ方にふれることができ、自分の感じ方を広げることにつながるからである。「Aさんも自分と同じ感じ方だ。」「Bさんと同じ感じ方だけど、〇〇のような表現の方法もあるんだ。」「〇〇と□□は同じことなんだ。」などというように、価値観を共有することができる。これが集団での学びのよさである。友達の意見を聞いたり、自分が感じたことや思ったことを自由に伝え合ったりしながら、音楽の聴き方の幅を広げていくことができる。

小グループによる伝え合いからはじめて、徐々に大きなグループでの伝え合いに広げていきたい。自分の感じたことや思ったことを、資料1を活用しながら、自分の言葉で友達に伝えていくのである。単なる一方向の意見の発表で終わらずに、対話ができるようにしたい。そのためには、ペア、小グループ、グループ、クラス全体など、座席の形態を工夫することが大切である。

資料2 伝え合いの様子



小グループで

クラス全体で

⑤ 音楽をじっくりと味わって聴く時間の確保

音楽を形づくっている要素の一つを取り出した分析的な鑑賞（前述②の活動）を大切

にするとともに、音楽全体を通して、じっくりと味わう鑑賞の時間を確保したい。ここでは、次のような鑑賞のしかたをしている。

ア 音声のみでの鑑賞

イ 映像付きの鑑賞（演奏者、場面のイメージ写真またはイメージ画、曲の構造を表したものを、楽譜などの映像をパソコンやプロジェクター等の ICT を活用しながら）

このように音楽の特徴や演奏のよさをじっくり味わいながら聴くことで、新たな発見に感動する場面もあるだろう。そのような体験が鑑賞学習の本来の姿であると考えている。

## (2) 研究の実践

### ① 拍の流れにのって（第4学年）

〈トルコ行進曲〉ベートーヴェン作曲

ア **主題に迫る手だて** 動作化・グループでの対話

活動内容	児童の反応及び考察
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2拍子に合わせて指揮をする。</li> <li>・ 音楽に合った行進をグループで考えさせる。（2グループ）</li> <li>・ 曲に合わせて行進する。 （音楽室の隅から前方へ） （1拍目を強く踏み出す）</li> <li>・ グループごとに対話する。 （A-B-A-B-A 形式の理解）</li> <li>・ 〈春の声〉J. シュトラウス作曲に合わせて行進する。</li> <li>・ 〈トルコ行進曲〉を鑑賞する。 （全体を通して聴く）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全員が曲に合った指揮ができる。</li> <li>・ 「はじめは小さい音だけど、だんだん大きくなっていくから、遠くから近くに行進してくるようにしよう」などの話し合いが行われる。</li> <li>・ 2つのグループとも、音楽室の隅から2列で前方に行進してくるので、クレッシェンドを知覚している。1拍目と2拍目の違いを感じているので、2拍子を体で感じ取っていることがわかる。</li> <li>・ 「途中で会話しているようだ」、「何かもめている」と、Bの部分の強弱の変化、Aに入る前のゆっくりになる部分などから、雰囲気を感じている。</li> <li>・ だんだん深く膝を曲げて1拍目を感じていた。体を横に揺らしながら3拍子に合わせて行進しているので、2拍子との違いを体で感じ、拍の流れにのって楽しく活動している様子が見られる。</li> <li>・ 「あなたが指揮者だったらどこが山か」、「友達に聴き所を教えられるように聴こう」と、聴くめあてを与えることで、音楽を主体的に聴こうとする態度とともに、鑑賞の能力も高まった。</li> </ul>

イ 動作化を通して

実際に行進したことによって、2拍子と3拍子の違いが、より詳しく理解できたと思われる。拍子に合わせて指揮をするだけでは、〈春の声〉のようなウィンナワルツの3拍子のよさはなかなか感じ取れないだろう。行進をしたことで、1拍目を感じる事ができ、拍の流れにのることができるのである。

資料3 行進の様子





② 旋律やひびき、速度の変化を聴き取り、その効果を感じ取ろう（第6学年）

〈ハンガリー舞曲 第5番〉ブラームス作曲

ア **主題に迫る手だて** 視覚化・グループによる要素の知覚

活動内容	児童の反応及び考察
<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに次の要素を聴き取る。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>1 グループ 色（調性）</li> <li>2 グループ 強弱</li> <li>3 グループ 速さ</li> </ul> </li> <li>楽曲の分析をする。 ワークシート（資料4）</li> <li>〈ハンガリー舞曲第5番〉を鑑賞する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人でこれら3つの要素を聴き取ることは難しいと考え、グループごとに担当させた。</li> <li>教師と児童の話し合いにより、曲全体を13の部分に分けて、分析をした。ワークシートに並んでいる13の枠の中に、グループごとに要素の特徴を書き込んでいく。資料の中のA～Fは曲のまとまりを表している。</li> <li>黒板に貼った13の部分进行分析したものを見ながら聴かせることで、全体の構造を理解しながら鑑賞できた。ジプシー化されたハンガリーダンスの魅力<sup>注</sup>を感じ取ることができた。</li> </ul> <p>(注) 最新名曲解説全集16独奏曲Ⅲ（音楽之友社）p86</p>

資料4 ワークシート及び「曲の設計図」

色（調性） × 青（短調） ○ ピンク（長調）

X	X	X	X	X	X	○	○	○	X	X	X	X	○
A	A	B	C	B	C	D	E	E	A	B	C	F	
<>	<>					(2回)							

強弱 ○強い △弱い

○	<>返し	<>返し		<>返し		2回	2回	2回	○△	◎	△○	◎	△
A	A	B	C	B	C	D	E	E	A	B	C	F	

速さ

A	A	B	C	B	D	E	E	A	B		F
速	速	速	速	速	速	速	速	速	速	速	速
(<>)	(返し)	(返し)	(返し)	(返し)	(返し)	(返し)	(返し)	(返し)	(返し)	(返し)	(返し)

黒板に貼った「曲の設計図」

イ 児童の感想（多かったものから）

<分析を行う前>

- ・速かったり遅かったりする曲だ。
- ・強いところと弱いところがはっきりしている。
- ・聴いたことのある曲だ。・聴きやすい曲だ。・リズム感があってすごくいい音楽だ。

<分析を行った後>

- ・ピンクの部分は会話をしているように聞こえる。（特に音が細かいところは）
- ・ピンクは踊っている感じだ。明るく速いから。
- ・青の部分は人々の悲しみ、苦しみを表していると思う。
- ・青は暗く悲しい、ピンクは明るく喜んでいるようだ。
- ・分析してみるといろいろな音が聞こえてくる。
- ・ハンガリーの人の生活みたいだ。（※作曲の背景については詳しく扱わなかった。）
- ・青は、毎日貧しい生活をしているように聞こえる。すぐに青になるから、ピンクはひとときの喜びである。
- ・音楽がこのようにできているのがわかってよかった。
- ・作曲家はすごく考えて作曲していることがわかった。

ウ 感想から見た考察

楽曲全体を分析し視覚化することで、ひとつの音楽として理解しやすくなると思われる。色（調性）、強弱、速さの3つの要素にしぼって、しかも、そのひとつだけを聴き取らせたので、簡単に分析することができた。自分のグループで聴き取った要素と他のグループのものを統合させると、楽曲全体の構造が浮かび上がってくる。音楽を形づくっている要素の働きと、それらによってもたらされるイメージが曲想と合致していることがわかる。この楽曲のもつ雰囲気を感じながら、味わって鑑賞することができた児童が多かった。

③ 尺八の音楽を味わおう（第6学年）

〈鹿の遠音〉作者不明、〈春の海〉宮城道雄作曲

ア 主題に迫る手だて 音声化・対話・本物（尺八）に触れる

イ 学習計画（4時間扱い）

次	時	学習内容	観点別評価				評価規準
			関	創	技	鑑	
1	2	尺八の特徴的な奏法のおもしろさに気付き、尺八の音色の特徴を感じ取る。 (本時は第1時)	◎			○	・尺八の奏法による音色の違いを聞き分けようとする。 ・聴き取ったことを話し合い、音色や音の特徴を友達に伝えている。
2	1	〈鹿の遠音〉の旋律の掛け合いから、情景を想像しながら味わって聴き、紹介文を書く。	○			◎	・聴き取った音や音楽から、感じ取ったことや想像したことを言葉で表すなどして、全体を味わって聴いている。
	1	フルート、尺八によるそれ	○			◎	・音色の特徴を聴き取り、自分なりの

それぞれの〈春の海〉の演奏を聴き、音色の違いを聴き分ける。		価値をもって、言葉で説明しながらイメージを膨らませて聴いている。
-------------------------------	---	----------------------------------

ウ 本時の学習

・目 標

尺八の音色の特徴を感じ取れるように、意欲的に聴こうとする。

・準備・資料

ワークシート、音源 (CD)、尺八、カード、PC、CD-ROM、リコーダー

・展 開

学習内容及び活動	支援・留意点・評価
1 尺八演奏の〈金髪のジェニー〉を聴く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クイズ形式で演奏楽器を当てさせる。</li> <li>・楽しい雰囲気の中にも、音や音楽に集中できるようにさせたい。</li> <li>・日本の楽器「尺八」の音であることに気付かせるとともに、表現力の豊かさも感じ取らせたい。</li> </ul>
2 本時のめあてを知る。	
尺八の音色の特徴を感じ取ろう	
3 尺八について知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・名称の言われ</li> <li>・構造</li> <li>・歴史</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本物の尺八を示し、竹でできている和楽器であることや歴史などについて簡単に説明することで、楽器に対する関心を高める。</li> </ul>
4 尺八の特徴的な奏法を知る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・メリ      ・カリ      ・ユリ</li> <li>・コロコロ      ・スリアゲ</li> <li>・スリサゲ      ・ムラ息</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの奏法を音だけで聴かせ、音の特徴をつかませたい。</li> <li>・聴き取った特徴的な音をリコーダーで真似させ、その違いから尺八の音のよさに気付かせたい。</li> <li>・それぞれの奏法名のカードを示し、音の特徴と名称が結びつくように声に出して言わせる。</li> </ul>
5 まとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート</li> <li>・意見交換</li> <li>・自己反省</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尺八のそれぞれの奏法を CD-ROM で視聴し、どのように演奏しているのかを理解させ、分かったことをワークシートに記入させる。</li> <li>・聴いた感想を友達と発表し合いながら、尺八の特徴的な音色を理解させる。</li> <li>・本時の学習の理解度について、ネームカードで意思表示させる。</li> </ul>
6 次時の学習内容を知る。	<p>⑩ 尺八の奏法による音色の違いを聴き分けようと、意欲的に聴いている。 (【関】観察, 発表, ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〈鹿の遠音〉を聴くことを知らせ、次時への意欲をつなげたい。</li> </ul>

**特徴的な奏法**

呼び方	音の感じ	映像を見て
メリ	消防車のサイレンみたい	あごを下げる 音を下げる
カリ	音が上がっている	あごを上げる 音を上げる
ユリ	波のよう 揺れている	首を横にふる 音をゆらす
ココロ	ボールがころころしているみたい 早くなっている	首をふるめせる
スリアゲ/スリサゲ	スリアゲ <sup>スリサゲ</sup> サイレンみたい	首を少しあつ上げる
ムラ息	電車がとまる音みたい!!	強い音でかすれさせる

第1次  
第1時のワークシート

音の感じをよく聴き取  
っていることがわかる。

**今日の感想**

尺八は首を横にふったり、あごを下けたりすることでいろいろな音がでるということがすごいと思った。

※次回は「鹿の通音」を聴きます。お楽しみに！ 自己評価 (おんがく)

**特徴的な奏法**

呼び方	音の感じ	映像を見て
メリ	高い音から低い音。 だんだん低くなって感じ	低くなること あごを下げている(だんだん)
カリ	だんだん高くなっていて ちよと音もふたつ感じ	高い音もあごをあげている。
ユリ	なみのおおきく揺れている音。 あたまがゆらゆらにゆらゆら音	首をふるって音をゆらける。
ココロ	まわりのような感じ。 音があつまっているみたい。	こまかくてを。(OP)のまわり、あたまをたたくしている。
スリアゲ/スリサゲ	嵐のくさくさいサイレンの音 あたまがゆらゆら音!	ゆびをゆらゆらにはたき(あたまをゆらす) 首がふるっている!
ムラ息	ちよとあつまっている音。電車がとまる音の音はすごい。	強く息をいれてかすれさせる。

**今日の感想**

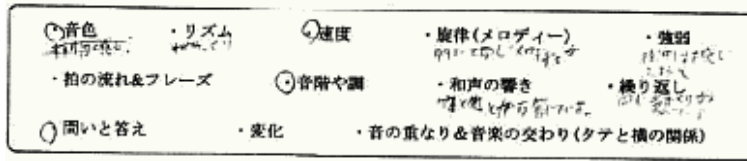
いろいろ工夫することによって音が変わるってすごいと思いました。尺八のみためでは「音を出すのがたのしみ」って思ってたけれど、とてもむずかしかったです。少しづつ人ねんできました。でも楽しかったです。

※次回は「鹿の通音」を聴きます。お楽しみに！ 自己評価 (おんがく)



実際に尺八を吹いている様子

資料6 ワークシート



聞こえたまま →→→ イメージ

第2次 第1時

〈鹿の遠音〉を聴いて書いた紹介文

鳥か林の中ですすり響きふるえている感じが  
 ・早くもきています。でしつづつ感  
 ・さえずりあり、かき鳴らしている  
 ・鹿と鹿と鳴いて互いにかき鳴らしている感じが  
 ・鹿の生息の場所が(鹿は死んでしまえばさえずり鳴いた)  
 感じている

鳥か林の中ですすり響きふるえている感じが  
 のゆけ初めて聴いたとして、タタターといふ同じメロディーが  
 くり返されていて、尺八だけでかまっています。  
 尺八は竹でつくられているので、音が自然な感じが  
 する。竹林の中にいるか、居場所が分からないか、鹿と鹿と  
 か鳴いて互いにかき鳴らしている感じが私には  
 感じた。他に尺八のかたまり音が、鳥か林が  
 の中ですすり響きふるえている様な感じもしました。  
 聴く人によってイメージは違うかもしれませんが、尺八の音と  
 鹿の鳴き声だと思えば、正に題名に相応しい曲だと思います。  
 又、減るにつれて尺八の音がいい感じになりました。  
 尺八は竹でつくられているので、自然な感じが少しはすれのある音かします。その為でしょうか。

<この児童が書いたメモの整理> ※分析は筆者

この曲は、初めて聴いたとしても「タタター」というゆっくりとした同じメロディーが繰り返り出てくるので、意外に聴きやすいです。尺八だけで奏でられています。尺八は竹で作られているので、音色は自然的で少しかすれのある音です。そのためでしょうか、まるで、竹林の中にいるような感じがします。「タタター」というメロディーが繰り返されているところは、どこか居場所が分からないが、鹿同士が互いに鳴き交わしているように聞こえます。この曲は尺八が2管使われていることから分かります。他にも、鳥が森の中で鳴いているように聞こえる箇所もあります。尺八のふるえているようなところが、そう感じました。

聴く人によってイメージは違うかもしれませんが、尺八の音を鹿の鳴き声だと思うと、まさに題名にふさわしい曲といえます。めったに聴けない尺八を聴くにもいいと思いました。

\_\_\_\_\_は聴き取ったこと、~~~~~はそこからイメージしたこと  
 \_\_\_\_\_は繰り返しの効果についての言及

資料7 ワークシート

第2次 第2時のワークシート

フルートと尺八の音色の違いを聴き取っている。

<p>(楽器:フルート)</p> <p>聞こえた音を言葉で表すと...</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ところどころがわらわらしておぼつかれた感じが音。</li> <li>・雲がたいくわくわくしている。</li> <li>・トナリの中にいる感じ。</li> <li>・音が二重に重なった感じがきれい。</li> <li>・ゴムのようになめらかな感じが音。</li> <li>・のびている感じが音。</li> <li>・おぼつかれた感じが音。</li> <li>・ふんばっているような音。</li> <li>・人工的</li> </ul>	<p>感じ取ったイメージは...</p> <p>天使の雲の上に 乗ってゴムを のびしている感じ。</p> <p>この楽器の特徴は...</p> <p>ふわふわして、わらわらした感じが音。</p>	<p>(楽器:フルート)</p> <p>聞こえた音を言葉で表すと...</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ひびきがいい</li> <li>・かすかにいい</li> <li>・すしおそい</li> <li>・なめらか</li> <li>・流されぶうな</li> <li>・尺八とはちがっての感じが音。</li> <li>・音がきれいな</li> <li>・じんごう的な感じ</li> <li>・つかのめさぶら音</li> </ul> <p>(楽器:尺八)</p> <p>聞こえた音を言葉で表すと...</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かすかにいい</li> <li>・音い</li> <li>・あいかけてぶうな</li> <li>・風がふいている感じ</li> <li>・昔にちがったぶうな</li> <li>・太い感じの音</li> <li>・こもったぶうな音</li> <li>・涼しい音</li> </ul>	<p>感じ取ったイメージは...</p> <p>トーンの中で涼しい感じ 雲の中にいるぶうな感じ。きれいな音。</p> <p>この楽器の特徴は...</p> <p>なめらかで音がすしおそい。</p>
<p>(楽器:尺八)</p> <p>聞こえた音を言葉で表すと...</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森の中に入っている感じが音。</li> <li>・音がすくかすかしている。</li> <li>・風のよき音が木にたたく感じが音。</li> <li>・すくく自然音</li> <li>・すくく同じ。</li> <li>・ゆい感じの音。</li> <li>・太い木の音</li> </ul>	<p>感じ取ったイメージは...</p> <p>森の中に入っている感じが音。 少しだけ空気を おいて森でかすかしているような感じ。</p> <p>この楽器の特徴は...</p> <p>すくく自然音 太い木の音</p>	<p>(楽器:尺八)</p> <p>聞こえた音を言葉で表すと...</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・かすかにいい</li> <li>・音い</li> <li>・あいかけてぶうな</li> <li>・風がふいている感じ</li> <li>・昔にちがったぶうな</li> <li>・太い感じの音</li> <li>・こもったぶうな音</li> <li>・涼しい音</li> </ul>	<p>感じ取ったイメージは...</p> <p>風にのってどこかへいこうな 林の中に入っているような感じ</p> <p>この楽器の特徴は...</p> <p>かすかにいい風がふいているような音</p>

第2次 第2時 〈春の海〉尺八と箏のタテ譜

※尺八の音色を聞こえたままに書こう。

フルート 音はなめらかさがあがる感じ 尺八は音がつかのめさぶらな感じが音

冒頭部を音声化したもの

タテ譜の右に、尺八の音を聞こえたままに聴き取ったものを、擬音語を用いて表現している。

四代中尾都山著  
都山流尺八 楽譜より転写

## エ 考 察

第1次は、尺八との出会いである。尺八の特徴的な奏法のおもしろさに気付いて、興味をもたせることがねらいである。資料5のワークシートを使って、メリ、カリ、ムラ息などの特徴的な奏法の違いによる音色の変化などを聴き取らせた。また、「サイレン」「波の揺れ」「電車の止まる音」に似ているとの記述から、尺八独特の音色を感受していることがわかる。

また、実際に尺八を吹いてみて、音がなかなか出なかった体験や、楽器の感触などは、尺八を身近に感じるきっかけになるとともに、今後の学習意欲に直結することなので、大切にしなければならない。

第2次は、〈鹿の遠音〉、〈春の海〉の鑑賞である。尺八の音色を「自然の音」「竹やぶ」のように感受し、個々の児童がイメージを広げながら聴いていることがわかる。資料6〈鹿の遠音〉の紹介文では、聴き取ったことと、そこからイメージしたことがはっきりと書かれており、鑑賞の能力が高まっていると見てよいだろう。資料7のワークシートでは、フルートと尺八によるそれぞれの〈春の海〉を比較鑑賞させ、それぞれの楽器の音色の違いを聴き取らせた。フルートを「なめらかでやわらかいゴムのよのびている」、尺八を「風が吹いているようなすごく自然な音」と感受している。〈春の海〉の感想では、資料8のように、自分なりの価値をもち、イメージを膨らませながら聴いていることがわかるような言葉による記述が数多く見られた。

### 資料8 〈春の海〉感想文

この曲は、尺八と箏による演奏です。最初の出だしの箏「タンタタタタタン」は、ゆっくり何回も出てきます。低い音から高い音は、浜辺に打ち寄せる波のようです。そこに尺八の有名なメロディーが出てきます。ゆったりとおおらかな感じが、荒れていない穏やかな海の様子を表しているようです。・・・中略・・・尺八の風のような自然な音と、箏の弾むようなよく響く音が、お正月にピッタリです。穏やかな日の出のイメージの新年にふさわしい曲です。

さらに、進んで音楽を聴こうとする態度を育てるために、楽しい授業を心がけている。資料9は、授業の振り返りで使うボードで、次の4段階評価で実施している。

お「おもしろい！」

ん「ん、なるほど！」

が「次、がんばろう」

く「くやしい！次こそは」

このボードに自分のネームカードを貼っていくことで授業を振り返らせる。毎時間実施するが、ほとんど右のようである。友達の様子を知り、学習集団の質を高めることにもつながると考えている。「おもしろい」と感じて音楽室を出ていく児童がひとりでも多くなるように努め

たい。また、同じようにワークシートにも欄を作り、それを蓄積していくことで、児童の形成的な評価にもつなげている。評価を生かし、児童にとって楽しかったか、おもしろかったかを大切にしながら授業を展開していきたい。

### 資料9 振り返りボード

「おんがく」



## 6 研究の成果と課題

### (1) 成果

新しい評価の考え方をふまえ、次の2点を常に意識して授業を進めてきた。

- ・ 進んで音楽を聴こうとしているか。
- ・ 音楽を形づくっている要素の知覚・感受を支えとして、楽曲の特徴や演奏のよさを味わっているか。

このような児童の学びの姿を引き出すために、仮説に基づいた授業の実践を通して検証してきた。視覚化や動作化、音声化などの活動を取り入れることによって、知覚・感受する力が高まった。その結果、音楽のよさやおもしろさを知り、音楽に対して主体的に取り組もうとする姿が見られるようになった。授業後に行った意識調査（平成23年7月）や、ワークシート、振り返りボードから、93%の児童が、「なるほど」「おもしろい」「わかった気がする」などの意見を述べるようになったことから明らかである。

### (2) 課題

表現領域と鑑賞領域でつちかったそれぞれの力は、互いに影響し合い、関連し合いながら総合的に高まっていくものである。それが音楽科で求めていく力である。今回は鑑賞学習で高まる力について研究してきたため、表現領域との関連には至っていない。次の2点を今後の課題としたい。

- ・ 鑑賞領域の授業と表現領域の授業との有機的な関連を求めていくこと。
- ・ 「音楽を表す言葉」をただつなげて「感想文をつくる」こと自体が目的の授業に陥らないようにすること。

今後も、鑑賞学習において、児童が気付いたことや感受したことを音で確認しながら、「なるほど確かにそうだ」という驚きや発見を大切にしたい授業を展開していきたい。そのためには、新しい評価の考え方を生かし、積極的に視覚化や動作化、音声化などの多彩な活動を取り入れながら、知覚・感受する力をより一層高め、音楽の特徴や演奏のよさを味わって聴くことができるように指導の工夫・改善を図りたい。

## 7 参考文献

- 「小学校学習指導要領解説 音楽編」 平成20年8月31日 文部科学省  
「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」平成22年3月24日 文部科学省  
「音楽鑑賞の指導法“再発見”」平成20年10月30日 財団法人音楽鑑賞教育振興会  
栗飯原喜男「音楽鑑賞指導の効果的な発問と評価のポイント」平成10年2月16日  
学事出版株式会社  
岡田暁生「音楽の聴き方 聴く型と趣味を語る言葉」平成21年6月25日 中公新書  
「季刊 音楽鑑賞教育」 vol. 3 平成22年10月1日 財団法人音楽鑑賞教育振興会  
「季刊 音楽鑑賞教育」 vol. 4 平成23年1月1日 財団法人音楽鑑賞教育振興会  
「季刊 音楽鑑賞教育」 vol. 5 平成23年4月1日 財団法人音楽鑑賞教育振興会  
「季刊 音楽鑑賞教育」 vol. 6 平成23年7月1日 財団法人音楽鑑賞教育振興会